

東日本大震災を経験して思う事

大切な命を守るために

防災教育の市民団体ゆりあげかもめ  
(元閑上保育所所長)  
会長 佐竹悦子

1



2



3



4

## 閑上保育所の概要

昭和31年 開所  
3～5歳児 定員30名  
昭和47年 現在の位置に移転

定員 60名(1歳～6歳)  
保育時間 午前7時半から午後7時

- 海拔0m
- 海岸800m
- 漁港まで260m

5

5

## 悪夢の日 平成23年3月11日

14:46 地震発生 震度6弱

液状化、地盤陥没

午睡中の出来事

・布団をかぶせ、様子を見る

14:50 余震が続く

園庭中央にブルーシートを敷き、集合

子ども54名、職員10名

14:55 2K先の小学校に避難を決める

1. 逃げます

2. 車を持ってきてください

3. 小学校で会いましょう

6

6

15:20 閑上小学校東昇降口 集合  
人数確認後屋上へ

15:52 津波到達

雪が降ってきたため、3階へ移動

寒さと恐怖の瞬間

16:10 火災発生

プロパンガスの爆発

四方から火の手が迫る

視聴覚室中央に円座になり、平常保育を心がける(歌、手遊び、お絵かき等)

教材や段ボール(寒さ対応、発達障害児のカームダウンエリア用)を集める

7

7

・避難してきた保護者に子どもを引き渡す

18:00 あたりは闇

「ママは？」 → 「必ず来るよ」

20:00 子ども19名 職員11名

「もう遅いからおやすみ」の声かけに入眠

誰一人泣かない、職員を困らせない、穏やか

↓

なぜ？

・小学生は

・中学生は？

・おとなは？

8

8

翌日

- 6:00 起床  
火災は続いている、水引かない
- 12:00 第2避難所 7キロ内陸の小学校体育館へ  
1,200名の避難者
- 16:00 隣接児童センターへ移動  
夕方子ども4名 職員8名(正職員のみ)
- ・職員の動きー避難所、ボランティアセンター対応  
災害対策本部からの伝達  
安否確認作業、炊き出し  
被災児(孤児・遺児)保育  
個別対応(高齢者、障害者、乳幼児)
- ・4日後 最後の1名保護者へ

9

9

15:52 津波到達



10

閑上小学校屋上、雪が降ってきた



11

海岸から2キロ、小学校校庭



12



13



14



15

保育所の避難訓練確認事項

**保育士の使命 ～命を守ること～**

1. 検証する

一地域に応じあらゆる**最悪を想定**して—  
地震・火災・津波・台風・集中豪雨・竜巻・大雪・爆発  
噴火・土砂災害・川の増水氾濫・崖崩れ など

①集合場所  
想定を超えたときの臨機応変な対応

②役割分担  
万全な体制ではないとき(園長不在など)

③多様な避難訓練の実施  
早朝、午前、午後、夕方、散歩中など

16

16

④避難場所の直接確認  
園内・園外・指定避難場所の安全

⑤避難経路 実際の確認  
危険個所のチェック、ルート

⑥非常持ち出しの数と内容  
本当に必要なもの、職員1人に1個

⑦備蓄の確認  
何日分(それぞれ異なる) 分散備蓄

⑧「養護」を忘れない

17

17

2. 災害マニュアル・避難訓練マニュアル

↓  
共通理解と共有(作って安心ではダメ!!)

実践→振り返り→各自の行動チェック・マニュアルを開く→反省・マニュアルの変更

↓  
うっかり見落としを無くす  
あわてず全体の動きが見える  
冷静な判断と行動ができる

ハドソン川の奇跡・名取市の奇跡→日頃の危機意識と訓練の結果 <偶然で奇跡は起きない>

18

18

多くの命が失われた逃げなかった理由は？

- ・口頭伝承の過信  
砂浜海岸、貞山運河を超えてこない  
安全な場所という思い込み

↓

- 避難するものに同調しない
- ・防災無線のトラブル(故障)
- ・消防サイレンの不明度(停電)
- ・避難指示の呼びかけ届かない(風の向き)
- ・避難できない人を置いていけない
- ・避難かとどまるかの判断と決断の差

19

19



20

震災後の保育所跡<玄関・給食室>



21

21

子ども達の大好きなプール・頑張った！！



22

22

地盤陥没した職員室



23

23

保育室があったとは思えない



24

24

瓦礫だらけ・誰が町があったと思うだろうか？



25

25

平成24年3月27日 避難所での退所式  
～みんなの夢が叶いますように～



26

## 心がひきおこす大きな問題

－メンタルヘルス対応の少なさ－

### 1. 子どもが抱える問題

- ・不眠 ・夜響 ・夢遊 ・不安障害 ・学習障害
- ・不登校 ・ひきこもり ・無気力 ・窃盗 ・暴力
- ・いじめ ・トラウマ ・PTSD

### 2. 家庭の問題

- ・児童虐待 ・老人虐待 ・親の不和 ・DV
- ・離婚 ・自殺 ・家族離散

27

27



28

28



29

<継続して行っていること>

1. 子どもたちを見守り続けること  
「一人じゃない、一人で頑張らない」  
夢や希望はかなうもの
2. 風化させない努力をすること  
大事な命を守るために、多くの犠牲者を出さないために、悲しい思いをしな  
いで済むように  
他人事ではなくいつか起きるかもしれない災害に備えて忘れないこと
3. 「命」を守ることを伝えること
  - ・生きたかった命がある(消防士、中学生)
  - ・粗末にしていると思える現実(自殺、殺人事件)  
身体を、心を傷つけるのは自然災害だけではない
  - ・命を守るための方法や知恵・勇気があれば、心に余裕が生まれる  
冷静な判断と行動につながります  
自分の住んでいる街を知りましょう

↓

  - ・防災教育の市民団体「ゆりあげかもめ」  
ぼうさい学校の開催

30

<学んだこと、伝えたいこと>

## 自分の命は自分で守ること

- ・いつも誰かと一緒ではない
- ・少しでも不安があるときは、安全な場所  
にまず避難すること
- ・自分の命を守れると、他の人も助けるこ  
とができる

31

## 学校や地域の避難訓練に参加

- ・命を守るために行われていることを理解  
する
- ・いつも真剣に！
- ・すばやく動ける体制がわかる

32

## 自分のマニュアル・ 家族のマニュアルを 作ろう

- ・非常持ち出し品・避難後の待ち合わせ場所等



個人・家族によってそれぞれ違う

- ・家族でしっかり話し合いましょう！！  
あわてないで逃げるために。

33

33

- ・職員の万全とは

たくさんいたらいいね！！

でも：万全のときに災害が起きるとは限らない

- ・出来ないことをあげると不安が大きくなる  
出来ることを増やしていきましょう！！

- ・災害発生時に優先することは？

命を守るための安全の確保＝他にない

事故が起きてからは全てが言い訳

偶然で奇跡は起きない

今ある環境で知恵と工夫をフル回転しよう

34

34

- ・ 自助、共助、公助

共助が出来ているか(信頼関係)

子ども:担任 職員:職員 管理者:職員

保育園:保護者 保育園:ご近所

- ・発災後は？

発生時の時間帯、季節によって異なる対応

親子で過ごせる避難所運営

個別対応の重要性

心のケア

35

35

ご清聴ありがとうございました。

36

36